

案件番号

05-A01

画像認識 AI 活用による食事量チェック／ データ管理システムの有効性の検証

見守り支援

画像認識AIを活用した食事量チェックおよびデータ管理システム

機器事業者・団体

株式会社シーエーシー

新規事業開発本部

〒103-0015 東京都中央区日本橋箱崎町24番1号

Tel: (03)6667-8000(代表)

HP: <https://www.cac.co.jp/>

意見交換実施施設

■社会福祉法人正覚会

特別養護老人ホームことりのはな

〒370-0074 群馬県高崎市下小鳥町 1234-2

意見交換のねらい

仮説検証を目的とした現場ニーズのくみ取り と実装機能イメージの意見聴取

介護の三大介助の一つである「食事介助」において、現場職員は短時間の介助の中で数多の対応（後述①～④）が迫られている。

- ①全入居者の食事量チェックを経て1日3食の摂取カロリー量を把握し、必要に応じて間食を提供する必要がある
 - ②入居者の家族へ入居者の様子（食事量やバイタルデータ等）を定期的に報告／連携する必要がある
 - ③施設運営等の観点から、全入居者の食事量データを施設管理システムへデータ登録する必要がある
 - ④介護報酬加算獲得のためには、入居者の食事量データを厚労省（LIFE）へ報告する必要がある
- 現場職員が本来の人的サービスに集中するためには、これらの負荷の解消／軽減が必須要件となる。

われわれは画像認識AIと関連ICT技術を活用した

サービス提供を通じて当該課題を解消すべく、現場のニーズが検討中のサービスで実現されるものかどうかを検証する目的で、介護現場から意見を聴取した。



システムによるサービスのイメージ

意見交換の成果

想定していた仮説、実装機能の先の真の ニーズの存在とその多様な背景への気付き

意見をいただいた施設の食事量を把握する背景やその結果を元にしたNext actionを細かく伺うことができ、介護現場のニーズ実現にあたって当方が当初想定していた仮説だけでは不足していることを明らかにできた。

今回ヒアリングに応じていただいた施設からのご意見を始め、並行して実施していたその他介護事業者へのヒアリングも踏まえての総合判断となるが、当方の想定していたサービスである「食事量チェック」とその結果データの外部システム連携はあくまで一つの過程に過ぎず、現場の真のニーズ

は入居者の総合的な健康状態の把握とそのためのも摂取栄養量の“見える化”である。

「上述ニーズを実現したサービスを提供できて初めて介護現場がサービス利用を通じて満足でき、対価を支払うに値すると感じていただけるものである」ということを企画初期で気付きを得ることができ、今後の事業開発に向けて多くのフィードバックを獲得することができた。